

## あけましておめでとうございます。

平素より、私ども社会福祉法人名古屋ライトハウスに対し、格別のご支援を賜り心より御礼申し上げます。皆様方のお力添えをもちまして、無事に新春を迎えることができました。

私ども法人は、その名称の通り視覚障害者の自立と福祉増進のために発足し、創設以来「ひとりの幸せのために」を旗印に、障害のある方が安心して暮らせる住まいの場と生活するに足る工賃を支払える職業の開発に邁進し、今年で68年を迎えることとなりました。今日では、障害児から高齢者まで幅広い福祉サービスを提供しております。

平成25年は、こうした福祉サービスの着実かつ活発な活動とともに、新しい給与体系の円滑な運用、人材育成を主眼にした人事考課制度の検討・構築、若手職員を対象とした自己研鑽研修の実施などに取り組んできました。本年は、職員研修の実施、人材育成を主眼とした人事評価考課制度の運用などに取り組み、更に活力ある職場を目指していきます。

昨今は、近隣諸国との友好関係の問題や体罰問題などありますが、アベノミクス効果による経済の活性化、サッカー日本代表のW杯出場、富士山の世界遺産登録、東京オリンピックの開催など嬉しいニュースもありました。障害者権利条約の批准も間近です。この1年も喜ばしい出来事や眉を顰めてしまうようなこともあるでしょう。今年は午年です。「塞翁が馬」とも言いますが、危機に際し慌てずうろたえず、良い兆しを感じてもしゃぐことなくこれを膨らませるような冷静な対応力が必要です。次代を担う若い世代の方たちに、あふれるエネルギーと冒険心を大いに発揮していただき、変化に柔軟に対応できるしなやかさをもって、新しい年も邁進していきます。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

理事長 本間 英典

Vol.  
15

年頭のごあいさつ(理事長).....	1
専務理事あいさつ .....	2
近藤正秋賞・片岡好亀賞贈呈式 .....	3
べてるの家 向谷地先生講演会 .....	4
各施設の近況 .....	5~11
近藤正秋氏生誕100年・福祉の店 開催 .....	12

## 専務理事あいさつ

明けましておめでとうございます。皆様におかれましては穏やかで輝かしい新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年5月、2期4年にわたる全国社会就労センター協議会（セルフ協）の会長を退任いたしました。期間中にお寄せいただきました様々なご指導に対し、心より御礼申し上げます。何よりも健康に恵まれましたことに感謝、感謝です。

任期期間中、新たな障害保健福祉施策を作るための総合福祉部会や、障害者の地域における就労支援のあり方研究会に参加できたこと、さらにはセルフ協結成以来の念願であった「障害者優先調達推進法」の成立に関われたことなどが、慌ただしかった中にも特に印象に残っており、また幸せ者であることを感じています。

また、東日本大震災の支援活動は終生忘れることはないでしょう。発生した翌日、名古屋以西のセルフ協本部役員に神戸に集まるよう要請、支援活動が始まりました。阪神・淡路大地震発生時の「時を逸してはならない」という教訓から、比較的早く動くことができました。多くのご支援ご協力に改めて感謝申し上げます。

### 「障害者優先調達推進法」について一言。

法律の中身は「ハート購入法」として既にできており、誰もが反対しませんでした。国会における与野党のかけひきの材料になってしまい、日の目を見ないままとなっていました。ところがある日、障害者制度改革を前進させるための条件として、ハート購入法が取り上げられることになりました。この機を逸してはならないと、集中的に運動を展開いたしました。与党（当時）の民主党をはじめ自民党、公明党、厚生労働省等に幾度となく足を運びました。最終的には法制局の担当者も入っていただき詰めを行いました。全会一致で成立、昨年4月1日に施行されたことをご承知の通りです。

議員さんからは、「法律は作ってやるが、ほんとうに君たち大丈夫か」と幾度となく念を押されました。私共も4つの就労支援事業所を運営していますが、つくってやってよかったと言われるよう、法律を理解し行動しなければなりません。障害者の自立の促進のために。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

専務理事 近藤正臣

# 愛盲報恩会

## 第8回 近藤正秋賞・片岡好亀賞 贈呈式について

平成25年12月7日(土)、愛盲報恩会による第8回近藤正秋賞・片岡好亀賞 贈呈式が名古屋市港区の名古屋盲人情報文化センターにて、愛盲報恩会委員、名古屋ライトハウス職員など関係者約40名の参加の下、開催されました。

近藤正秋賞は、視覚障害者の地域団体活動、職業活動、政治活動などにおいて著しい功績があるとともに、今後の活躍が期待される人に贈られ、今回は、新潟県視覚障害者協会理事長の松永秀夫氏の推薦により、青木 学氏(新潟市議会議員)が受賞されました。バリアフリーの街づくり市民活動から新潟市議会議員となり、5期にわたる活動を通して、政令市の体制整備、平和・人権都市をめざした様々な活動が評価されました。



片岡好亀賞は、視覚障害者の福祉、教育、文化、スポーツ等の分野で活躍し視覚障害者の社会的進歩に著しい功績があるとともに、今後の活躍が期待される人に贈られます。今回は、大学入試センターの藤芳 衛氏の推薦による河内清彦氏(筑波大学理療科教員養成施設特命教授)が受賞されました。東京都心身障害者福祉センターの現場から、大学での「障害者観」を始めとした研究活動、理療科教員養成施設の施設環境の改善や、将来構想、理療教育の在り方検討の中心的活動が評価されました。

また、中部地域(愛知、岐阜、三重、静岡の4県)で視覚障害者の地域団体活動で著しい功績のある視覚障害者に贈られる地域活動特別賞には、アンサンブル・アミーの肥田隆久氏の推薦による田中博澄氏(アンサンブル・アミー)が受賞されました。1968年、名古屋盲学校OBに呼びかけ、ラテンバンドグループ「アンサンブル・アミー」を結成し、45年間、団のリーダーとして、音楽を通して、多くの人々に夢と喜びを伝えて来た活動が評価されました。



贈呈式では、本間理事長より表彰状と副賞が手渡され、その後、各推薦者より推薦のことばを受けた後、各受賞者より記念スピーチが行われました。青木氏の議員としてバリアフリーを進めようという力強い発言や、河内氏の視覚障害研究者もどんどん博士号を取るべきとの発言が印象的でした。また、田中氏は、お嬢様と推薦者の肥田氏も交えて「ドナウ河のさざなみ」などの演奏も披露されました。

受賞者の皆さまの益々のご活躍を期待すると共に、関係者の皆様に心より御礼申し上げます。



## 向谷地生良先生 講演会を開催

障害者自立支援法が施行され、3障害の垣根がなくなりました。また、厚生労働省の「相談支援体制の充実」という掛け声の下、当法人でも市委託の障害者地域生活支援センターに加え、5箇所の指定相談支援事業所を開設し、日々多くの障害のある方との関わりを持つようになりました。

長年、主に身体障害のある方を対象に支援を行ってきた私たちにとって、近年急激に増えつつある精神障害のある方々への支援は、「勉強しなきゃ！」と思わせるには十分な課題でした。

そこで声をかけさせていただいたのが、(恐れ多くも?)北海道、浦河べてるの家の向谷地生良先生です。先生は、大変お忙しいにもかかわらず日程を調整してくださり、昨年11月16日、名古屋市港区の港ワークキャンパスにお越しくださり、講演をいただきました。外部へも広報し、法人職員が66名、県内の精神保健福祉に携わる方や当事者の方が38名、合計104名の参加となりました。

午前中の講演では、同行いただいた障害当事者の方と共に、生の声を交えながら、「初心者」の私たちにも大変に分かりやすくお話いただきました。当事者の方が生きる世界をイメージしたり、「幻聴さん(べてるの家での呼び方)」との付き合い方を聞くなど、大変に新鮮な内容でした。

午後からは先生を囲み、事前や午前中の講演後に参加者から集めた質問に丁寧に答えていただきました。当事者の方との面談場面を想定した演習もふんだんに行われ、たくさんの方の支援のヒントを得る機会となりました。

昼休みや終了後には、べてるの家で作っている昆布やグッズ、先生の著作等の販売も行われ、大盛況でした。



今回の機会は、それぞれの場面で精神の障害のある方と関わりを持つ職員にとって多くのヒントをもたらし、更に様々な理論、考え方などを勉強したいというモチベーションを上げるものとなりました。今後も専門性を高め、障害のある方の地域生活を支援できる私たちであり続けたいと改めて感じました。

# 光 和 寮

## 光和寮・地域交流フェスは、 なごやの伝統??

「菓子まき」。この地方では昔から新婦が家を出るとき、自宅の屋根や2階からお菓子をまくという風習がありました。

光和寮の地域交流フェスティバルでは、これを昨年から始めました。しかし昨年は、大人が必死になりすぎて小さなお子さんが危険!という情け無用の状態に。ということで、今年はお子さんと大人の時間を分けて実施するほどの盛り上がりです。

菓子をまくために屋根に上がったスタッフは、まるでドリフの「ヒゲダンス」を踊った方が似合うような大道芸人風の二人。これが光和寮の未来を担う若手職員です。芸達者な職員が増えてきました。今後が楽しみです。

ところで、地域フェスの締め括りはやっぱり大人気の「抽選会」。地方特有のもではありませんが、この手のお祭りには昔から欠かせません。あらかじめフェスのチラシに抽選会の引換券を印刷し、それを約4,500枚、ご近所さまに日頃の感謝を込めて配らせていただきました。

抽選会には本当にたくさんの方に集まっていたきました。

抽選会本番。抽選箱を持ってパフォーマンスをするのは、我が法人の専務理事(写真)。若手に負けじと大ハッスル!おかげさまで抽選会は歓声と笑いで大賑わいでした。

さて、会場を見渡すとディズニーランドのチケットが当選したと抱き合って大喜びしている人が。なんでも抽選券を誤ってゴミ箱に捨ててしまい、奇跡的にゴミ箱から回収した抽選券が当選したとのことでした。1等は32型の液晶テレビに日本ハムの高級ギフトがつくという豪華版。当選したのは最後の最後に遊びに来てくださった若い奥様でした。手には持ちきれないほどの荷物。持ち帰り方を悩まなければいけないほど大きなプレゼントになりました。

こんな驚きと笑いと歓声に満ちた光和寮の地域フェスは、この地域に根付いてきました。これからもずっと続いていきそうです。



# 明 和 寮

## 「地域交流フェスタ」開催

昨年10月5日、港区障害者地域生活支援センター・わくわくキッズ・あちえっとほーむの「ライフサポートセンター」による秋のお祭り、「地域交流フェスタ」を開催しました。第6回目となる今回は「やってみよう！みてみよう！たべてみよう！」をテーマに実施し、166名の方に来ていただきました。

利用者さんの協力のもと、普段活動している取り組みを地域の方々に体験していただくコーナーを設けて作品作りを楽しむ企画をしたり、パソコンのスライドショーを使って日頃の活動の様子を見ていただきました。

また、他法人の事業所である「くじらのお宿」・「すずめくらぶ」のみなさんにも参加していただき、屋台・作品販売のブースを盛り上げていただきました。



このお祭りの抽選会のキーワードであった「笑顔」がたくさん見られたお祭りであったことを心より嬉しく思います。

## 「親和会旅行」

平成25年度の親和会一泊旅行は6月7日・8日の2日間で浜名湖方面へ、大型バス4台、ワゴン車1台、約180名での旅行となりました。ケガや事故も無く、天候にも恵まれ、とても楽しい旅行となりました。



「移動距離が少ない方が良い」「目的地でゆっくりしたい」「普段できない事がしたい」など多くの意見をいただき、今回の企画内容となりました。

一日目は浜松にてバーベキュー！海が近いので、風が強く、なかなかお肉が焼けないハプニングもあり、利用者さんからは「職員に肉を焼かせてばかりで大変だったね」との声もありましたが、ワイワイガヤガヤ盛り上がりしました。夕方にはホテルへ移動し、浜名湖を眺めながらゆっくりと温泉に入り、夜はおいしい料理とお酒で大宴会を楽しみました。

二日目は「豊橋のんほいパーク」「ラゲーナ蒲郡」を観光。帰りの車中はみんな寝てしまう程、十分楽しみました。次回もみんな楽しい旅行にしたいですね。

# 港ワークキャンパスの挑戦



## 就労継続支援B型

### 缶詰めの概念を刷新します!



いろいろな  
お菓子を  
缶詰めに

パンですよの缶を利用した  
お菓子の缶詰め加工



パンですよ!! が有名なワークキャンパスですが  
有名なお菓子の缶詰め事業を始めます



私たちががんばってます

## 就労継続支援A型

### 製造方法で革命を起こします!

従来の製造方法は  
印刷済のブリキ板を丸めて缶を作ります



従来の製造方法で完成品



シュリンクラベル完成品



シュリンクラベルを替えば  
どんな製品缶でもできます  
白地缶の計画生産が可能になる



新しい発想の製造

ひとつのライン工程で  
複数の製品製造が可能に  
なり大幅なコストダウン

白地の缶にシュリンクラベルを  
巻きつけて作る特許製法

一致団結 常に挑戦あるのみです。

本年もどうぞよろしくお願い致します

施設長 野々下哲也

# 緑 風

おかげさまで緑風も3度目の新年を迎えることができました。名古屋市からの移行時に8名だった利用者も今では36名となり、昨年8月には利用定員を20名から40名に変更することができました。施設内は見違えるように活気が溢れ、利用者それぞれが目標を持って日々の作業に取り組んでいます。

## 最近の利用状況

○障害別割合【身体38%・知的48%・精神14%】

利用者の増員とともに、知的や精神の方が増える傾向にあります。

○利用スタイルの変化

福祉サービスの利用スタイルが多様化しており、3割の方が緑風以外にも日中活動系の他事業所を併用して利用されています。(精神デイケアや生活介護等)



## A E D 体験

千種消防署さんご指導のもと、地域の方にも声をかけてA E D講習会を開催しました。皆さんとても熱心に参加され、多くの利用者さんも心臓マッサージなどの蘇生法を体験しました。「職員だけに任せちゃおけない！」



## 日帰りバス旅行

昨年11月8日、長野県阿智村の富士見台高原へバス旅行に行ってきました。ドキドキのロープウェイと全山紅葉の景色には皆さん大感激!“花より団子”の方々に好評だったのがタイヤキ作り体験。見た目はさておき、味はバッチリ大満足でした!

# 戸田川グリーンヴィレッジ

## 研究発表を終えて

理学療法士 二村 賢、生活支援員 北川こずえ

平成25年9月26日、27日東海北陸職員研究大会（静岡）に発表者として参加させていただきました。「筋ジストロフィー利用者のADL向上に向けた限界チャレンジ」という題目で、筋ジストロフィー利用者に8週間の集中的な運動療法を行いました。進行が緩徐である筋ジストロフィーの方であれば運動療法は効果的であるという報告があり、1日40分～90分 週5日の訓練を実施。本人の頑張り職員との介入により若干の筋力値向上、起き上がり「全介助」が「一部介助」へ。本人の気持ちも前向きになることができました。

今回の研究報告ですが、たくさんの方に発表を聞いていただきました。一人で到底できるものではなく、多部署連携にての成果であり、このような取り組みを施設全体で続けていければと思っています。ありがとうございました。

追記：今回、施設長始め6人で静岡大会に参加し、発表後はおでん街等で楽しい時間を過ごすことができました。



## 戸田川秋祭り

昨年9月22日に秋祭りを行いました！今回は「戸田川秋祭りだよ！全員集合！」というテーマで、利用者の方々にも、実行委員としての参加や催し物の手伝い等の協力をしていただき、秋祭りを作り上げました。地域の方々にも多くご参加いただき、来客・協力ボランティアの方々とともに、前年より一回り規模の大きい秋祭りとなりました。メインステージでは、かすりの会様の舞踊、職員によるバンド演奏やエイサー踊り、利用者・職員合同の仮装ショーと、目を引く企画が勢揃い。特に仮装ショーでは、参加者の普段見られない貴重な姿にステージは大盛り上がりでした！（男性参加者は全員性転換しました）ステージ以外でも、組紐体験、バザー・野菜市、手作りアクセサリーショップ、秋祭り限定の創作スイーツなどなど様々な楽しい企画に利用者も大満足でした。来年以降も是非足をお運びいただければと思います。



# 名古屋盲人情報文化センター

## ユニバーサル運動会のご報告

昨年11月17日（日）、市内千種区の名古屋盲学校で4団体（CSネット東海、中部盲導犬協会、名古屋市視覚障害者協会、名古屋盲人情報文化センター）共催による「第2回名古屋ユニバーサル運動会」が開催されました。グラウンドでは晴盲ペア80名の選手が4チームに分かれ、デカパンリレー・ボール運び・玉入れ・音響リレー・タンDEM自転車競争・綱引き・・・など10種の競技に大歓声があがりました。老若男女・障害の有無に関わらず誰もが楽しめるこの運動会は、その競技内容に様々な工夫がされています。タンDEM自転車では、2人乗り自転車の前に晴眼者、後ろに視覚障害者がまたがり「左へ曲がります」「スピード上げます」など晴眼者は走行状況を声に出し、2人で漕ぐ早さを合わせながらグラウンドを2周、正に「風を切って」ゴールへ向かい走り抜けました。秋空の下、走って投げて飛んで、思いっきり体を動かすことで爽快な気分を分かち合うことができました。



## 用具展のご案内

用具展のお知らせです。5月17日（土）・18日（日）の2日間、視覚障害者のための「第11回用具展」を開催します。会場は名古屋盲人情報文化センターです。16程の業者が集まり、IT機器や拡大器、音声操作のできるエアコン、オンオフが直感的に分かるスイッチカバーなどご覧いただけます。中でも興味深いのは「スマート電子白杖」です。杖の上部にある超音波センサーで正面と頭部前方の障害物を感知すると、グリップに振動を伝えます。視覚障害者の歩行支援機は過去に様々なものが出たは消えましたが、この電子白杖の実用性や如何に？たくさんの方に歩行体験をしていただきたいです。そして「職員が語る愛用品紹介コーナー」では、視覚障害当事者である職員が自慢の使い勝手を披露します。何が紹介されるか、どうぞお楽しみに。十分な広さではないセンターですがご来場下さった皆様から「触れそびれた」「見そびれた」「聞きそびれた」という心残りがないよう、スマートなご案内を準備いたします。たくさんの方の好奇心溢れるご来場をお待ちしております。



# 瀬古マザー園

## 新春ご挨拶（三宅園長）

新年あけましておめでとうございます。皆様には、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

私ども高齢者施設は、介護報酬の減額改定から2年目を迎え、経営環境はさらに厳しくなっておりますが、施設を利用される方々が安心して安全に暮らしていただけるよう努力してまいりますとともに、引き続き地域を支える安心・安全拠点を目指してまいります。

今後とも皆様の変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。



## 新任ご挨拶（伊藤副園長）

新年あけましておめでとうございます。平成25年10月1日付けで盲養護老人ホーム 瀬古第二マザー園施設長に就任いたしました伊藤桂子と申します。

盲養護老人ホーム設立にあたりご尽力された多くの方々の想いを引き継ぎ、微力ではございますが、誠心誠意努力いたす所存でございます。何卒、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



## 施設の近況（夏から秋にかけて）

### <給湯管更新工事>

昨年の6月下旬から8月にかけて、施設給湯管の全面更新工事を行い無事に終了いたしました。瀬古マザー園は平成元年の開設から25年目に入り、各所で手入れが必要な箇所が増えてきましたが、利用者の皆様に安心して過ごしていただける環境づくりに引き続き努めてまいります。



10月23日 名古屋市老人福祉施設作品展 見学にて

## <矢田マザー園デイサービスセンター

### 開設10周年>

平成25年8月1日をもちまして開設10周年を迎えることができました。これもひとえにご利用者、関係者の皆様のご支援の賜物と感謝しております。未永く皆様にご愛顧いただけますよう職員一同よりいっそうの精進をしておりますので、これからも何卒よろしくようお願い申し上げます。

## 創設者 近藤正秋氏の生誕100年に想う

昨年、平成25年12月、当法人創設者の一人、近藤正秋氏の生誕100年を迎えました。68年前、「ひとりの幸せのために」を信念に、障害者が「働く場所」と「暮らす場所」をゼロから生み出した近藤氏。その情熱と実行の弛みない積み重ねによって、今の名古屋ライトハウスの礎が築かれました。私たちはその遺志を受け継いで歩んでいるのだろうか。この生誕100年という節目に、名古屋ライトハウスで働く私たち一人ひとりが、近藤正秋氏を偲び、その原点に立ち返りたいと思わずにはおられません。



## 障害者作品即売会 「福祉の店」開催！

毎年恒例となり、今年で34回目となる障害者作品即売会「福祉の店」が、約1ヶ月間に渡り、県内5会場にて開催されます。

愛知県、名古屋市、愛知県セルフセンター等8団体主催による、「福祉の店」は、障害のある方が日ごろの訓練を活かして制作した製品や、長年培ってきた経験や技能を活かした作品を展示即売することにより、生産活動を通じて社会参加への意欲を助長し、自立を促進するとともに、県民の障害のある方に対する理解を深めることを目的としています。

また今回は、震災発生より3年目にあたる3月11日を中心として、全国規模で東北被災地復興支援を目的として実施する「がんばろう東北」全国販売会を同時開催します。

福祉に関心がある方にも、そうでない方にも声をかけていただき、ぜひとも足をお運びください。

2月25日（火）～3月3日（月）	イオンモールナゴヤドーム前
2月27日（木）～3月4日（火）	西尾おしろタウンシャオ
3月7日（金）～3月13日（木）	イオン豊橋南店
3月10日（月）～3月14日（金）	イオンモール扶桑
3月18日（火）～3月20日（木）	金山総合駅コンコース特設会場

お問い合わせ：社団法人 愛知県セルフセンター TEL：052-201-1147